

研究分野	海洋構造	部名	浅海環境部
研究課題名	浅海定線調査		
予算区分	国補 (国1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	S. 47 ~ H. 19		
担当	今井 美代子		
協力・分担関係	なし		

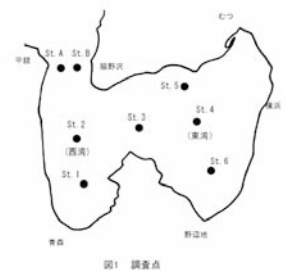
〈目的〉

本課題は、陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得ることを目的として実施し、本年度は継続34年目の調査年次であった。

〈試験研究方法〉

- 1 調査海域 陸奥湾内 St. 1~6 の6 定点、湾口部 St. A, B の2 定点、計8 定点(図1)
- 2 調査回数 毎月1回
- 3 調査方法及び項目

- ①気象、海象 : 天気、雲量、気温、気圧、風向・風力、波浪
- ②水色、透明度
- ③水温、塩分 : 0m, 5m, 10m 以深は底層(底上2m)まで10m 間隔
- ④溶存酸素量 : St. 1~6 の20m 層、底層及び St. 2 と4 の5m 層



〈結果の概要・要約〉

2005年の海況の特徴

透明度の最低値は St. 1, 3 の8月の8.0mで、最高値は St. 6 の6月と St. B の12月の20.0mであった。

水温の最低値は、0m層では湾口部の St. A のみ4月に、そのほかの St. 1~6, B で2~3月に、20m層では St. A で4月に、St. B で2月に、St. 1~6 で3月に、底層では St. A, B で2月に、St. 1~6 で3月に、それぞれみられた。

湾全体の年間最低水温は、0m層は St. 6 の3月の2.90℃、20m層は St. 3 の3月の2.42℃、底層は St. 6 の3月の2.40℃であった。最高値は、0m層では8, 9月に、20m層では9月に、底層では9, 10月にみられた。湾全体の年間最高水温は、0m層では St. 3, 6 の8月の25.80℃、20m層では St. 4 の9月の23.62℃、底層では St. 6 の9月の22.01℃であった。

水温の年間の推移は、平年に比べ、1月は平年並み~やや低め、2月は概ね平年並み、3月はやや低め~かなり低め、4月は平年並み~やや低め、5月は中層でやや低め、上層と下層でかなり低め、6月はやや低め~かなり低め、7月はやや高め~かなり高め、8月は上層で平年並み~やや高め、下層で平年並み~やや低め、9月は底層で平年並みのほかはやや高め~かなり高め、10月はやや高め~かなり高め、11月は概ね平年並み、12月はやや高め~かなり高めであった(図2)。

塩分の年間の最低値は、全て St. 6 の5月に記録され、0m層で32.01、20m層で32.08、底層で32.54であった。年間の最高値は、0m層では St. A の2月の33.95、20m層では St. B の8月の34.03、底層では St. B の9月の34.32であった。

塩分の年間の推移は、平年に比べ、1月は平年よりやや低め、2月は平年並み~やや低め、3月はやや低め~かなり低め、4月は平年並み~かなり低め、5月はやや低め~かなり低め、6月は20m層以浅でやや低め~かなり低め、その下層で平年並み~やや高め、7月は平年並み~かなり低め、8月は上層で概ね平年並み、下層でやや低め~かなり低め、9月は概ね平年並み、10月は底層でやや高めのほかは平年並み~やや低め、11月は概ね平年並み、12月は平年並み~やや低めであった(図2)。

溶存酸素量は、20m層、底層とも全観測地点で3月に年間最高となった。この後は低下傾向が続き、St. 6 の底層で8月に、このほかの調査点では9月または10月に年間最低となった。20m層の最低値は St. 6 の10月の6.47mg/l(飽和度88%)、底層の最低値は St. 4 の9月にの3.25mg/l(飽和度42%)が記録され貧酸素状態がみられたほか、St. 5 の10月にも4.39mg/l(飽和度59%)と、水産用水基準記載の「底生生物の生息のために最低限維持しなければならぬ底層の溶存酸素量4.3mg/l」をわずかに上回る値まで低下した。

〈主要成果の具体的なデータ〉

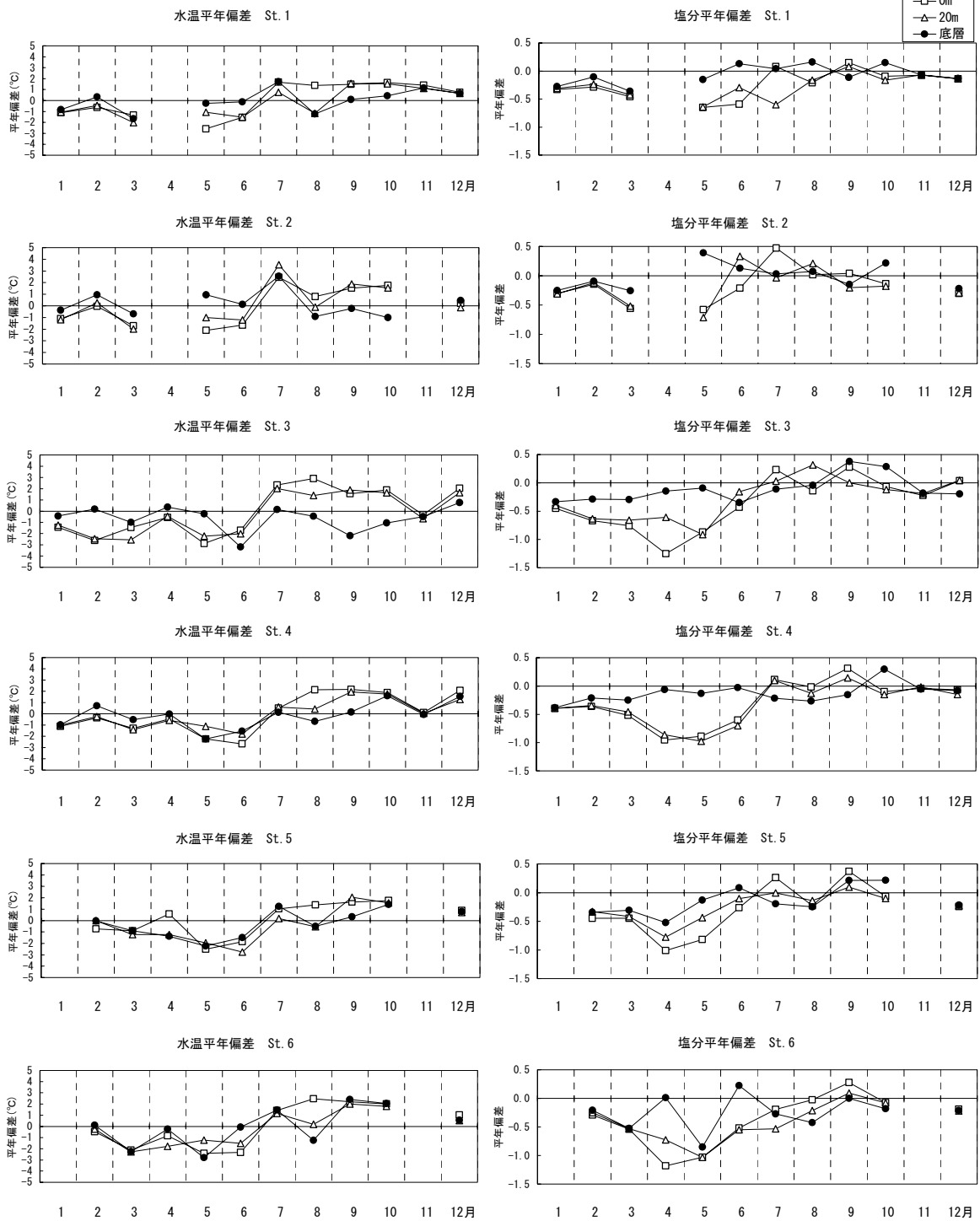


図2 2005年の水温と塩分の年平均偏差の推移(年平均値は1972~2004年の平均値)

〈今後の問題点〉

冬期間に欠測が多く発生

〈次年度の具体的計画〉

調査の継続と特に成層期の溶存酸素量の監視強化

〈結果の発表・活用状況等〉

平成17年度資源管理体制強化実施推進事業浅海定線調査結果報告書(陸奥湾)